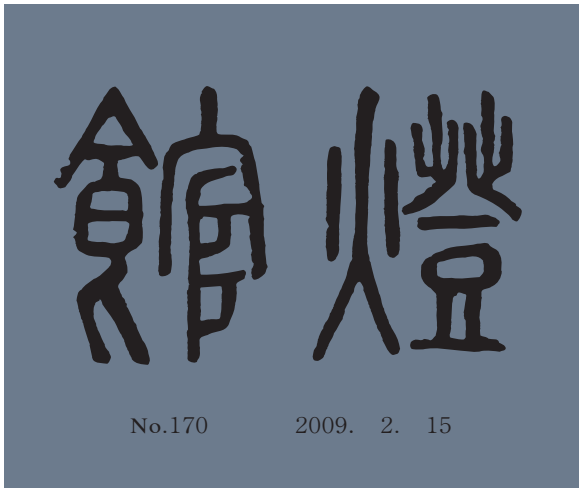
名古屋大学附属図書館報　　ISSN 0387－477X



http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/

目　次

より良い語学教育・学習支援環境を目指して … 1
「西洋近代思想と永井文庫
　－最大多数の最大幸福を求めて－」…… 3
「源氏物語の書物と絵画」展示と講演 …… 4
「館長と話そう！ 2008」への図書館の対応 … 6
「本のリユース市」 …… 7
利用者から見た図書館 …… 8
本学教員著作物の寄贈リスト …… 9

≪教育、学習支援・図書館の役割、その現状≫

より良い語学教育・学習支援環境を目指して

小　松　雅　宏

1. はじめに

全学教育棟中央棟は平成20年4月に改修工事を終え新しく生まれ変わりました。その中で名古屋大学として推進している語学教育環境の改善、特に英語教育の改善に伴い新たな語学学習環境「CALL教室」が新設されました。正式名称は「語学学習用コンピュータシステム」ですが通称「CALL（コール）教室」と呼びます。旧来のLL教室（Language Learning）との大きな違いは、その名称CALL（Computer Assisted Language Learning）が示す通り、コンピュータを基本としたシステムである点です。長らく語学学習媒体として活躍してきたカセットテープは最近では姿を消すに至り、シリコンオーディオ・マルチメディアプレーヤーといったデジタル機器にとって代わられました。映像・音声といった語学教育に欠くことの出来ない教材はデジタル化され、ネットワークを介しての配信やコンピュータ上での再生がごく一般的になってきました。また学生のコンピュータ・ブロードバンドネットワークの普及率も上昇し、語学学習にも e-learning を導入する土台も整ってきました。このような環境の中で「学習支援」のあり方も大きく変わりつつあります。ここでは、これらの概要とともに図書館との関係についても触れたいと思います。

2. CALL教室の概要

CALL教室は全学教育棟中央棟2FにCALL1、CALL2、CALL3、CALL4の4教室が新設され

CALL教室

ました。各教室のブース数はそれぞれ54、36、36、40の計166ブースとなっています。CALL教室に隣接して情報メディア教育システムのサテライトラボ2室、計132台のコンピュータ端末が全学教育棟中央棟2Fに集約されています。CALL教室に設備されているコンピュータ端末は情報メディア教育システムのサテライトラボと同じ機能を備えており、サテライトラボの機能に加えて語学学習の為のハード及びソフトが付加されたものです。

今回導入したCALLシステムはフルデジタルCALLシステムと呼ばれるもので、音声・映像といった教材は全てデジタル化されネットワークを介して配信されます。旧来のLL教室の各ブースに設置されていたカセットテープデッキに替わりコンピュータ上のソフトで実現された通称「ソフトレコーダ」にて録音・再生が行われます。CALL教室はLL教室が備えていた機能であるインカムでの個別対話、モデル、ペアレッスン等も全て備えています。そしてLL教室に「CA」が付きCALL教室になった事でさらに高度な付加機能を多く持っています。

デジタル化された教材を再生する際に音程を変化させずに再生速度を変える事も可能です。音声教材だけでなく映像も教材として利用可能です。また、様々な配布・回収機能を備えており、録音した音声の提出、ディクテーションを行ったワード文書の一斉回収等の教員にとっての支援機能も充実しています。モニター機能による学習者のモニターや一斉コントロール等の便利な機能も多数取り揃えています。このような機能は語学学習のみならず幅広いコンピュータを用いた授業においても利用可能です。

またCALLシステムでは教材サーバを持っており、予め教材をサーバ上に蓄積することにより学習者はオンデマンドで教材を利用出来ます。さらにこれらの教材は、ソフトレコーダと共にUSBメモリーに保存して持ち帰る事が可能です。学習者はCALL教室で利用している再生ソフトであるソフトレコーダと共に持ち帰る事で、CALL教室と全く同じインターフェースを用いた学習をCALL教室外で行う事が可能です。（音声教材はソフトレコーダ専用のフォーマットに暗号化されており、著作権保護に配慮しています。）持ち帰り教材の再生にはWindows XP、Windows Vista何れかのコンピュータ環境が必要です。その環境があれば学習者は自宅でも自習可能となり、学内でも全学教育棟サテライトラボ、さらに附属図書館に今年度新設されるラーニングコモンズのセミナールームでもスピーキングを含む自習学習が可能になるなど、学内の共同支援の進展も進み、学習環境はかなり向上することになります。

３．英語教育でのe-learning導入

平成21年度より国際基準の英語力を目指して、英語の新カリキュラムが実施されます。新カリキュラムでは語学検定試験（TOEFL-ITP＋Criterion）を用いた習熟度別クラス編成を行い、学生は自身の英語力に即した授業を受けられるようになります。また新カリキュラムでは1年次にe-learning教材「ぎゅっとe」による自習学習が導入され、語学学習にとって必要不可欠な学習量の増加に貢献します。自習学習教材の「ぎゅっとe」を導入する上で学習環境を整備する必要があります。自宅にコンピュータとブロードバンド環境を持つ学生は自宅での学習も可能ですが、学内にも多くの学習環境を整える必要があり、CALL教室、全学教育棟サテライトラボ、附属図書館ラーニングコモンズ、同サテライトラボ（注）などが自習学習の拠点となります。また、全学教育棟には学習用の端末だけではなく自習学習支援の為の「アカデミック・イングリッシュ支援室」も新設され人的な支援も拡大されます。（注：附属図書館や学内のサテライトラボでのリスニング学習利用等には、個人用のイヤホンが必要となります。）

４．語学検定試験TOEFL-iBT試験会場

CALL教室のもう一つの顔として語学検定試験TOEFL-iBTの試験会場という機能を持っています。TOEFL-iBTは留学等の際に要求される語学検定試験です。これまで東海地区のTOEFL-iBT試験会場は少なく、名古屋大学の学生もわざわざ遠方の試験会場まで出向いていました。今回CALL教室をTOEFL-iBT試験会場として一般に開放し、名古屋大学が東海地区最大の試験会場になりました。試験会場が少な

く受験予約の困難な TOEFL-iBT 試験ですが、名古屋大学関係者には優先予約枠を確保しています。詳しくは留学生センターホームページ http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/abroad/toefl.html をご覧下さい。

５．おわりに

私たちを取り巻く生活の中でも情報化の波は押し寄せています。当然大学における語学学習環境の情報化・デジタル化も例外ではありません。語学検定試験 TOEFL-iBT も完全にコンピュータのみでの試験となりました。今後 e-learning や CBT（Computer Based Test）が益々普及する事は確実な情勢です。学習環境を取り巻く情報化の潮流は避けて通れないものであり、それに備えた学習環境の整備が急がれます。全学教育における CALL 教室の整備、附属図書館でのラーニングコモンズやサテライトラボといったコンピュータを備えた施設での自習学習環境の整備、それと同時に電子ブック、オンライン語学辞書データベース、CD、DVD による多様な学習用資料・ソフトウエアのより充実した提供が求められることは、これからの学習支援の一つの潮流ではないかと考えます。

（こまつ・まさひろ　国際言語文化研究科助教）

２００８年秋季特別展報告

「西洋近代思想と永井文庫－最大多数の最大幸福を求めて－」

長　尾　伸　一

名古屋大学附属図書館 2008 年秋季特別展は「西洋近代思想と永井文庫　―最大多数の最大幸福を求めて―」と題し、附属図書館が永井義雄名古屋大学名誉教授から寄贈を受けた貴重図書を元に、2008 年 10 月 6 日（月）から 27 日（月）にかけて、附属図書館・同研究開発室主催、経済学研究科の共催により中央図書館 4 階展示室で開催された（写真 1）。

日本では徳川幕府の支配が続いていた 200 年ほど昔、イギリスでは、近代的な政治や社会の幕開けを告げる新しい思想の誕生の時代を迎えていた。ベンサムやオウエンなど、その時代を代表する思想家たちや、フランス革命、議会改革、穀物法論争など、当時の論争の的となったテーマを中心に、新しく名古屋大学附属図書館に寄贈された「永井文庫」の豊かな世界の一端が紹介された。

写真１　展示会場の様子

10 月 18 日（土）には中央図書館 5 階の多目的室（14:00 ～ 17:00）で、永井名誉教授に加え、以下の各界の専門家の方々をお迎えして講演会が開催された（写真 2）。講演会ではコレクションの背景である研究の概要とその特徴、コレクションの特長や、展示会の概要の説明があり、理解を深めることができた。またコレクション形成の意図や、それにまつわる貴重な逸話も紹介された。

- 土方直史氏（中央大学名誉教授）「ベンサムからオウエンへ－功利主義・民主主義・協同主義－」
- 柳田芳伸氏（長崎県立大学教授）「永井文庫の特徴とその学術的意義」
- 永井義雄氏（名古屋大学名誉教授）「本を通して出会った人たち」
  コメンテーター：深貝保則氏（横浜国立大学教授）

写真２　講演する永井名誉教授

永井コレクションは以下のような点で、高い学術性を持っている。第一に、本コレクションは「近代意識」を典型的に示している18世紀末イギリスの急進改革主義と19世紀イギリスの功利主義を主な関心としつつ、近代イギリスの改革思想を歴史の文脈に密着して緻密にとらえていこうとしている点に顕著な特徴がある。このようなコレクションのあり方は、それぞれの時代の重要な著者の主著を解釈して思想の発展史を構成する思想史から、思想が生まれた現場を細部にわたって歴史的に検証し、その中で思想の動きをとらえようとする思想史記述への転換を示している。この点で本コレクションは、氏独自の思想史的展望とともに、「文脈主義」や「政治言説史」などの方法論的主張に典型的に見られる、近年の思想史研究の展開をよく表現しているといえる。

第二に、本コレクションは以上のような思想史の構想に基づき、群小の著者、作品を重視して収集されている。その中には匿名、著者不明の作品も多い。本コレクションは資料論的にも、思想の展開を歴史的現実の細部に即して観察するため、忘れられた著者やパンフレットやマニュスクリプトを重視してきた思想史研究の方向性をよく示している。

第三に内容の点から見ると、コレクションの主眼は、功利主義を大きな柱としつつ、18世紀後半の急進主義、18世紀末から19世紀初頭のフランス革命をめぐる急進派とそれに対する保守主義の台頭、19世紀前半の自由主義と社会主義およびそれに対する対応を、論争や歴史的事件の影響を見ながら克明に跡付けていくところにある。その点で、集められた資料の内容の点でも、歴史の具体的な変動と論争の場の中で思想をとらえる方法論が一貫して貫かれている。本コレクションは以上の点で、本館所蔵の近代思想史コレクションの学問的な延長と展開として位置づけることができる重要な資料集成である。

このように本コレクションはきわめて専門的な内容のものであるにもかかわらず、NHKニュースで報道され、講演会にも多くの人々が参加されるなど、名古屋地域に貴重な学術資料がもたらされることへの高い関心がうかがわれた。この点からも本展示会は、地域の研究支援体制を支える附属図書館の意義を改めて確認できたといえよう。

（ながお・しんいち　経済学研究科教授）

「源氏物語の書物と絵画」展示と講演

高　橋　　亨

2008年は源氏物語千年紀ということで、名古屋大学附属図書館においても「源氏物語の書物と絵画」という展示が、11月10日（月）から11月24日(月・祝)にかけて催された(写真1)。附属図書館と同研究開発室の主催で、文学研究科の後援ということもあって、11月15日（土）の午後には、文学部237教室で「『源氏物語』と後宮文化」という私の講演も行った（写真2)。その企画と実施に関わった者として、報告と感想を記しておきたい。

伊藤図書館長から最初にこの記念事業について依頼されたとき、中央図書館4階の展示室に

写真１　講演会当日の展示室の様子

何をどう展示すべきかという問題が頭をめぐった。名古屋大学附属図書館には、神宮皇学館文庫や岡谷文庫、森本文庫、小林文庫など、貴重な蔵書がある。それらの中から『源氏物語』を主とした平安朝物語の関連書物を展示することが基本となる。とはいえ、学会における展示とは違い、専門家だけでなく一般の人々にも楽しく観ていただくためには、ビジュアルな画像を多くすることが好ましい。

幸い、塩村耕教授を中心とする和漢古典籍整理で附属図書館蔵の前記貴重本の調査を長く担当した眞野道子さんの全面的な協力を得て、『源氏物語』をはじめとする物語の絵入り写本や版本を選定し展示することとした。けれども、それらの「書物」だけでは色気が足りない。ことに、展示室に入って右の壁面の大型ケースには、華やかな屏風こそがふさわしい。

ということで、タイトルを「源氏物語の書物と絵画」として、架蔵の源氏物語屏風六曲一隻と六曲一双の二種、また源氏絵のパロディである浮世絵や扇面の源氏絵なども展示した。これらは江戸時代のものなので、国宝『源氏物語絵巻』の絵巻の状態に復元した複製本や、蓬左文庫蔵の『河内本・源氏物語』複製本（日本文学研究室蔵）なども加えた。もちろん、中央図書館蔵の奈良絵本『さごろも』などのケースも輝きを放っていた。

それらの詳細については、「源氏物語の書物と絵画」という瀟洒な解説のパンフレットを参照していただきたい。これは眞野道子さんの力作で、架蔵（個人蔵）の「絵画」の部分のみ私が記した。

講演にも展示した屏風などの源氏絵をはじめ、架蔵の画像を多くパワーポイントで用い、好評であったと思う。その後のギャラリートークにも多くの人が参加し、その日の展示観覧者だけでも百数十名にのぼった。入場者総数は700名近いとうかがったが、短期間の展示としては多数の方に見ていただいたと思う。

源氏物語千年紀のこの一年に催された企画は千を超えるであろう。春には京都文化博物館における大規模な「源氏物語千年紀展」、11月初めにもその中心となる国際フォーラムが催され、私も参加した。そうした大規模な企画に比べればささやかであっても、名古屋大学におけるこの記念事業は、じつに充実したものであったと自負してよいであろう。

いうまでもなく、こうした企画を成功させるためには、多くの方々の意欲的な協力が欠かせない。研究開発室の斎藤夏来氏をはじめとする中央図書館の皆さん、受付を担当してくれた日本文学研究室の大学院生たちなど、関係者すべてにありがとう。

（たかはし・とおる　文学研究科教授）

写真２　講演する高橋教授

「館長と話そう！２００８」への図書館の対応について

昨年の10月24日（金）中央図書館で第6回目が開催され、6名の学部学生・大学院学生の方々から多くのご意見やご要望が出されたことは前号でお知らせしました。今回は、その後、図書館はどのような対応を図ったかなどについて、そのいくつかを報告します。

Ⅰ　中央図書館について

① 研究個室の利用について

学部学生が試行として研究個室を利用できるようになったが、利用の実態はどうか。

［対応］　平成20年8月1日から12月26日まで、学部学生に対し研究個室の利用開放の試行をしました。研究個室の利用は、前年度と比較して増加しています。この増加は平成20年2月から始まっており、試行期間の8月～12月で特に顕著に見られるとは言えません。なお、試行期間5か月間につきましては、利用した人数、利用コマ数それぞれの約2割を学部学生が占めていました。

今回の試行は8月からの5か月間でしたので、今後も1年間のデータを採るため、試行を継続することとします。

②ＬＡＮの整備について

4階西側の研究個室からも無線ＬＡＮを使えるようにしてほしい。有線ＬＡＮが使えなかった。

［対応］　研究個室につきましては、現在でも4階東側の個室では無線ＬＡＮが使えます。今年度整備中の中央図書館ラーニングコモンズの構築の中で、館内全域で無線ＬＡＮの利用ができるように検討しているところです。

③ コピー機の増設について

3階、4階に設置されていないので設置してほしい。

［対応］　名古屋大学消費生活協同組合のカード式白黒コピー機1台を3階に増設する予定です。

Ⅱ　部局の図書館・室、研究室の利用について（［対応］は、各図書室からの回答です）

・生命農学図書室について

④ 貸出期間を延ばしてほしい（現行の1週間を、2週間または10日に）。

［対応］　貸出期間は1週間ですが、予約が入っていなければ2回まで更新でき、合計して3週間借りることができますので、今のところ、貸出期間を延長することは考えていません。

⑤ 一般雑誌の見直しをしてほしい。

［対応］　一般雑誌（学生厚生用雑誌）については、平成19年度に6年ぶりに見直しを行っています。学生・院生を対象にしたアンケートの結果にもとづき、生命農学研究科の図書出版委員会と学生生活委員会で購入するタイトルを決定しました。それまでに購入していた雑誌の中には休刊・廃刊となったものもあったため、新しく6タイトルを追加しています。ご希望にそえなかったことは残念ですが、部局図書室で一般雑誌を購入しているところはほとんどないことも考慮していただき、ご理解いただきたいと思います。

・情報・言語合同図書室について

⑥ 私費用のコピー機を設置してほしい。

［対応］　ご要望のあることは認識しておりますが、設置場所の確保など解決すべき問題点がありますので、もうしばらく時間をいただきたいと思います。全学教育棟の改修工事が終わる今春以降に設置するという方向で検討いたします。

・文学図書室について

⑦ 利用者が所属する研究室以外の研究室の資料が利用しにくい。

［対応］　ご不便をお掛けしております。研究室備付図書は、直接研究室へ行って利用していただいていますが、直接の利用が難しい場合、取り置き等いたしますので、文学図書室へご相談ください。

「本のリユース市」－ご来店ありがとうございましたー

情報管理課資料管理掛

昨秋の10月18日（土）にホームカミングデイが開催され、卒業生、在校生、教職員が集うなか、学内のあちらこちらで講演会、保護者懇談会、コンサートや親子サッカー＆ラグビー教室等、創意に溢れた企画が催されました。そんな中、豊田講堂のピロティでは附属図書館主催の「本のリユース市」が出店されました。

この「本のリユース市」は、学内で不用となった図書を有効利用しようという発案で始まりました。「不用」とはいっても決して一般的利用価値がなくなったものではなく、改訂等で版が古くなったものや、図書室のスペースが狭くなり、重複している図書を除却せざるを得なくなったため等、必要な手続きを踏んで「除却」となった図書です。従来のように古紙として処分するのではなく、読んでいただける方々に提供して蘇らせたいとの思いから始まったものです。

出店に向けて、附属図書館情報管理課の作業テーブルでは、職員が各部局図書室から処分手続きを終えて送られてきた図書のラベル剥がしや、書き込み（本来、やってはいけないことです）を消す作業等、毎日、業務の合間をみてこつこつ作業をしてきました。有償で提供する図書の値段は、定価により3段階に分類し、値段が識別できるように本の背に色ラベルを貼付しました。できるだけ、経費と手間を掛けずに実施したいとの思いから、図書の運搬と開催当日のセッティング以外は全て職員が準備をしました（写真1）。

ホームカミングデイ当日は、豊田講堂に積み上げられた90箱のダンボールから本を取り出して並べる作業から始まりました。初めてのことで、どれだけの時間がかかるのか見当もつかず、また、請け負った業者の人たちもてんてこ舞いの状況で、開店に間に合うかどうかハラハラしながらの作業でした。いつの間にか事務局の職員の方々の応援をいただき、どうにかこうにか開店時間には並べ終えることができました。気が付けば、開店を待つ人の列ができていて感激でした。実のところ、ラベル剥がしの作業をしながら、「お客が来るだろうか、閑古鳥が鳴いたらどうしよう」と不安を口にしたものです。予想外の人出で、乱れた図書を並べなおしたり、休む間もないくらい盛況でした（写真2）。

捨ててしまえばただの紙屑。長年図書館で皆さんに利用された図書は、今、誰かさんの書斎の書棚に、あるいは学生さんの机の上でまた活用されています。図書を大切に使いたいものですね。

リユース市の来場者及び販売実績は以下のとおりです。この販売収益金は今年度の学習用図書の購入に充て、学習用図書の充実のため有効に活用させていただく予定です。

最後に販売にあたって、御協力いただきました名大生協の皆様、また、御援助いただきました事務局の皆様にお礼を申し上げます。

・入場者は、老若男女、学内･学外者、様々でした
・入場者は1,312名（内、購入者342名　入場者の26.1％）
・会場に持ち込んだ有料分冊数　2,220冊
（内、売上冊数　1,114冊　有料分の50.2％）
売上金　162,100円
・会場に持ち込んだ無料分冊数　514冊
（内、捌けた冊数　400冊　無料分の77.8％）

写真1　図書の整理作業の様子

写真2　リユース市会場の様子

≪利用者から見た図書館≫

図 書 館 と は

米　川　佳　彦

「あなたにとって、図書館とはどういうところですか？」という質問に対して、10人いたらそれぞれの答えがあると思います。すなわち、図書館とは：

・本や雑誌を探し調べものをするところ
・本を静かに読むところ
・レポートや勉強をするところ
・セミナー室での合同勉強会

ここまでは真面目な人が答えることでしょうか。その他には、

・インターネットをするところ
・空いた時間をつぶすためのところ
・安らかに眠るところ

などと答える、所謂非常に真面目な人もいるだろうと思います。

最近新しくなった第六版の広辞苑を引いてみると、図書館とは「明治中期の訳語であり、図書・記録その他の資料を収集・整理・保管し、必要とする人の利用に供する施設」とあります。

私自身にとって図書館の利用法は、上の全てにあてはまるかもしれません。図書を調べること、レポートや勉強、セミナー室での勉強会をすることはもちろん、机上で船を漕いでいることも恥ずかしながら稀ではないと思います。それにしても、大学生の高学年なら一日の大半を占めるべきであろう勉学と睡眠を図書館において遂行しているという事実は、私が長時間図書館にいるということの裏付けでしょう。その甲斐あってか、最近思うようになってきたことを一つ、この場を借りてご紹介させていただきます。

せっかちにも結論から言うと、「図書館では相当いろいろなことができる」ということです。医学部の特性上、調べものは常に最新の図書を利用することが極めて重要です。その意味ではインターネットによる論文検索システムや、最新の教科書は必要不可欠です。

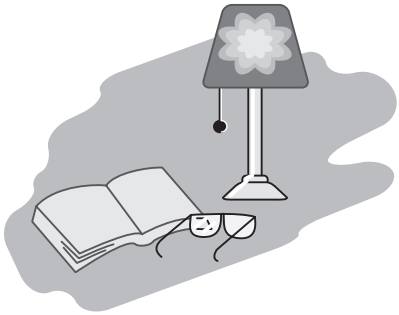
なぜこんな当たり前で陳腐な文章を書いたか。それは私が最近になってようやく、これらのことを全て図書館で行えることに気付いたからです。

教科書等の図書は書架に行けばもちろんたくさん並んでいます。最新の教科書で、買うには少し値が張るものを探し当てた時はなんだか得した気分になります。さらに図書館は多くの電子ジャーナル閲覧権を持っているので、インターネットからも多くの有益な情報を得ることができます。Up To Dateという医学者向けのウェブサイトがあるのですが、最近お願いして図書館で使えるようにしていただきました。

レポートは図書館でできるし、勉強は図書館でできる。勉強仲間が図書館にいる。調べものは図書館でできる。疲れたら一休みできる。本が読める。図書館、相当いろいろなことができます。

まだ低学年の頃、大学の図書館はなんだか専門的で、難しそうで、無愛想な堅物のイメージがありました。（以前はあまり図書館を利用することはありませんでした。）しかし、こんなに良いことを知ってしまった以上、これからも図書館を利用したいと思います。

（よねかわ・よしひこ　医学部医学科５年）



本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成 20 年 10 ～ 12 月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

（寄贈者の敬称は略します。）

所　属	寄贈者名	寄　贈　資　料　名	資料ＩＤ	配置場所
教育発達科学研究科	松本真理子	これからを生きる心理学：「出会い」と「かかわり」のワークブック / 川瀬正裕，松本真理子，丹治光浩著－京都：ナカニシヤ出版，2008. 4	11633290	中央学 3 F 141.93/Ka
教育発達科学研究科	松本真理子	子育てを支える心理教育とは何か：誕生から青年期まで / 松本真理子編集－東京：至文堂，2008. 8	11640277	中央学 3 F 080/Ma
文学研究科	吉田　純	清朝考証学の群像 / 吉田純著－東京：創文社，2006. 12	11618225	中央学 3 F 125.6/Y
文学研究科	神尾美津雄	リアリティクライシス / 神尾美津雄著－東京：英宝社，2008. 10	11642460	中央学 3 F 930.2/Ka
教育発達科学研究科	今津孝次郎	人生時間割の社会学 / 今津孝次郎著－京都：世界思想社，2008. 12	11643971	中央学 3 F 371.3/I
法学研究科	和田　肇	人権保障と労働法 / 和田肇著－東京：日本評論社，2008. 10	11646402	中央学 3 F 366.14/W
医学部保健学科	太田　勝正	看護とは何か：看護の原点と看護倫理 / アン・デービス，太田勝正共著－東京：照林社，1999. 10	11647920	中央学 3 F 492.9/D
医学部保健学科	太田　勝正	健康増進のためのウェルネス看護診断 / Karen M.Stolte〔著〕; 小西恵美子，太田勝正共訳－東京：南江堂，1997. 7	11647921	中央学 3 F 492.9/St
医学部保健学科	太田　勝正	看護情報管理論 / 上泉和子，太田勝正編集－東京：日本看護協会出版会，2004. 4	11647922	中央学 3 F 492.983/Ka
医学部保健学科	太田　勝正	エッセンシャル看護情報学 / 太田勝正，前田樹海編著－東京：医歯薬出版，2006. 5	11647923	中央学 3 F 492.9/O
医学部保健学科	太田　勝正	公衆衛生 / 芦野由利子［ほか著］－東京：医学書院，2004. 2（第 11 版第 3 刷）	11647924	中央学 3 F 492.908/A
医学部保健学科	太田　勝正	公衆衛生 / 芦野由利子［ほか著］－東京：医学書院，2004. 2（第 11 版第 5 刷）	11647925	中央学 3 F 492.908/A

「小林・益川・下村先生　ノーベル賞受賞記念パネル展示」開催中です

2008 年のノーベル物理学賞を受賞された小林誠、益川敏英先生、同化学賞を受賞された下村脩先生の、受賞対象となった業績等を紹介するパネルを中央図書館 4 階展示室で展示しています。先生方の研究内容などを図、写真、説明文などでやさしく説明するものです。また、ノーベル賞財団作成の業績紹介パネル（英文）なども展示しています。ぜひ一度ご覧下さい。

期　　間：2009 年 1 月 20 日（火）～ 2 月 27 日（金）（土・日・祝日は閉室）
時　　間：8：45 ～ 17：00

附属図書館 2009 年春季特別展の予告

「旗本高木家主従の近世と近代－高木家文書と小寺家文書－」

岐阜県西部（現大垣市上石津町）に在住し木曽三川流域の治水事業などに活躍した旗本高木家の家臣であった小寺家、そこに約 8,500 点の古文書が伝来しています。附属図書館・同研究開発室では小寺家の協力のもとにその古文書を整理してきましたが、それを踏まえ今回初公開します。在地旗本とその家臣の生活振り、明治維新期の激動の中で変わりゆく武士の生きなどを、主従双方に残された古文書などから読み解きます。多数のご来場をお待ちします。

期　　間：2009 年 5 月 11 日（月）～ 6 月 5 日（金）（日曜日は閉室します）
時　　間：毎平日、土曜日　9：30 ～ 17：00
場　　所：中央図書館 4 階展示室ほか

講 演 会：2009 年 5 月 16 日（土）13：00 ～
場　　所：中央図書館 5 階多目的室
講　　師：宮地正人氏（前国立歴史民俗博物館長）（演題未定）
展示解説：斎藤夏来（名古屋大学附属図書館研究開発室特任准教授）

➢➢➢➢➢➢➢➢➢➢➢　お　知　ら　せ　➢➢➢➢➢➢➢➢➢➢➢

☆ 電気工事のための中央図書館の臨時休館について

中央図書館では、館内の電源関係のトランス交換工事のため、2009 年 3 月 15 日（日）を終日臨時休館といたします。掲示等でもお知らせいたしますが、ご注意下さい。

☆ 中央図書館 4 階研究個室　学部学生利用開放の試行延長のお知らせ

中央図書館では昨年 8 月から学部学生にも研究個室を利用開放する試行をしてきましたが、通年の利用状況をみるため、試行を当分の間続けることにいたしました。

利用できるのは、学部の正規学生で、1 コマ約 4 時間、1 日は午前・午後・夜間の 3 コマですが、学部学生は最大 1 日間の利用ができます。予約も最大 1 日までですが、利用予定日の 1 週間前から予約可能です。

☆ 建物耐震改修工事のための環境医学研究所図書室の閉室予定について

期　　間：2009 年 4 月～ 2010 年 3 月（工事は今年 6 月～来年 2 月に予定されています。利用について詳しくは研究所図書室［内線 3860］までお問い合わせ下さい。）

##########〔行事等〕＜ 20.10. 6 ～ 21. 1. 5 ＞

・2008 年秋季特別展「西洋近代思想と永井文庫－最大多数の最大幸福を求めて－」（中央図書館）〈10/6 ～ 27〉506 名
・同講演会（中央図書館）〈10/18〉75 名
・2008 年名古屋大学附属図書館源氏物語千年紀記念事業「源氏物語の書物と絵画」（中央図書館）〈11/10 ～ 24〉573 名
・同講演会（文学研究科）〈11/15〉125 名
・第 8 回東海北陸地区 CSI 事業報告会（中央図書館）〈12/1〉52 名
・附属図書館友の会トークサロンふみよむゆふべ（第 14 回）（中央図書館）「女性が学ぶということ－日本文学にみる〈女訓書〉の世界－」かたり　榊原千鶴〈12/3〉31 名
・東海地区大学図書館協議会平成 20 年度第 1 回研修会（アクトシティ浜松）〈12/22〉69 名

編集委員会
増田晃一（委員長）福岡千絵（中）松脇まゆみ（中）
立花千津子（中）大塩和彦（情報・言語）
山口典子（法学）金田志保（保健学）鈴木美奈子（医分館）

館燈（かんとう）：　名古屋大学附属図書館報　No.170　2009 年 2 月 15 日　名古屋大学附属図書館発行
〒 464 - 8601　名古屋市千種区不老町　電話（052）789 - 3684（ダイヤルイン）